

新 郡市医師会長 インタビュー

第 3 回 萩市医師会長 綿貫 篤志 先生

と き 平成 31 年 3 月 14 日（木）

ところ 萩地域医療連携支援センター会議室

〔聞き手：広報委員 堀 哲二〕



堀 委員 本日は平成 30 年 6 月から萩市医師会長に就任されました綿貫篤志 先生に新会長としての抱負や医師会の現状、さらに先生のプロフィールについて伺いしたいと思います。綿貫先生、よろしくお願いします。

まず、会長になられ、先生が最も力を入れたい医師会活動はどのような活動でしょうか。

綿貫会長 まずは医療介護連携並びに地域医療包括ケアの構築を重点的に行ってまいりたいと考えております。

堀 委員 過疎化や市民の高齢化が進む北浦地域では、他の医療圏とは違った組織構築が急務だと思いますが。

綿貫会長 高齢化が進むこの地域では、慢性疾患を抱えたまま生活を続けておられる方々への生活基盤を支える仕組み作りが急務です。そのため、このたび萩保健医療圏内の各地域を対象とした地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療、介護及び行政関係者のさらなる連携を推進するため「萩圏域 地域包括ケアネットワーク協議会」を設置することにいたしました。設置に至ったのは、萩市医師会が県より受託しました「在宅医療提供体制充実支援事業」と、萩市・阿武町が推進して

いる「在宅医療介護連携推進事業」の背景や目的が重なり合っていることから、両事業に対する合同の協議会を設置し、合理的で効率的、効果的な取組みを推進していこうという狙いがあります。医師会が受託した事業は、昨年 9 月より、3 年間にわたる継続事業でありまして、萩市と阿武町、医師会の三者が一致結束して、この期間内に具体的な成果を上げることを目指しています。

堀 委員 具体的にはどのような活動をお考えでしょうか。

綿貫会長 先立って、今年の 3 月に講師の先生をお招きし、多職種連携研修会と市民公開講座を開催しました。在宅医療体制の構築については、医師会の内部で、地域ごとの在宅医療機関の確保、後方支援病院と在宅医療機関の連携体制の構築、在宅医紹介制度の構築などを話し合う協議会を設置しました。議論を重ね、主治医・副主治医制など在宅医療機関間の連携システムの構築や、後方支援病院と在宅医療機関のグループ化などの仕組みをさらに構築していきたいと考えています。

堀 委員 医療機関を中心とした多職種間連携システムの構築がぜひ必要ですね。その他にどのような活動をお考えでしょうか。

綿貫会長 前執行部より引き継ぎました地域医療連携情報システム「萩あんしんネット」事業を普及・拡大させ、更に充実させていきたいと考えております。

堀 委員 事業の充実には、どのような取組みをされていますか。

綿貫会長 「MEDPost」(医師資格証 (HPKI カード) に対応した重要な文書ファイルを送受信できるクラウドサービス) を利用したこのシステムは、全国的にみても先進的取組みであり、今年の 3 月 3 日に日本医師会にて開催された日本医師会医療情報システム協議会で、現在行っている行政との連携、医師会内での連携について発表させていただきました。

堀 委員 取組みはうまく運用されていますか。

綿貫会長 このシステムの運用はまだまだ始まったばかりで、参加施設の拡大を目指すとともに、目標である圏域内での医療情報の電子化を目指し、行政とともに協議会を設立し、定期的に議論する場を設け、効率的な運用を行っていききたいと考えております。

堀 委員 いろいろな構想をお考えですね。今度は萩市医師会の現状をお伺いします。萩市医師会は歴史のある医師会と伺っております。簡単にご紹介ください。

綿貫会長 萩市医師会は、明治時代に私立好生会が設立され、大正時代には阿武郡医師会が設立されました。昭和 7 年に萩町の市制施行により阿武郡医師会より萩市医師会として分離し、法人の萩市医師会が結成され現在に至ります。

堀 委員 現在、何名の会員がおられますか。

綿貫会長 平成 31 年 3 月現在で 88 名です。

堀 委員 年齢構成は、やはり高年齢化していますか。

綿貫会長 平均年齢は 58 歳です。

堀 委員 どのような会員構成でしょうか。

綿貫会長 A 会員が 35 名、B 会員が 50 名、C 会員が 3 名です。

堀 委員 施設数など、現在の状況を教えてください。

綿貫会長 一般診療所 42 か所、うち内科系 28 施設、外科系 15 施設、産婦人科系が 1 施設、眼科 3 施設、耳鼻咽喉科 1 施設、皮膚科 2 施設となっております。在宅療養支援診療所は 4 か所となっております。病院は 7 施設あり、うち 4 病院で 2 次救急病院が構成されております。

堀 委員 施設数や診療科は整備されていると思いますが、現状として何か問題点はありませんか。

綿貫会長 この萩医療圏は、県内で人口一人当たりの医師数が最も少なく、高齢化も進んでいます。さらにコ・メディカルの確保も難しく、少ない医療資源の中、いろいろと工夫しながら人員確保に努めております。

堀 委員 今、コ・メディカル確保のお話がありましたが、どのような対策をお考えでしょうか。

綿貫会長 看護師不足が深刻で、准看護学校の安定した運営が重要課題となっています。先日、県医師会で「学校課題対策検討会」を開催していただき、他の施設と問題点を共有することができました。県医師会の理事の先生方や他都市医師会の先生方からご助言いただき、いろいろな方法で地元への定着を一段と強化していきたいと考えております。

堀 委員 今のお話の中で、萩医療圏では医師の減少と高齢化が進んでいると伺いましたが、救急体制はどうでしょうか。

綿貫会長 現在、萩市では 2 次救急は 4 病院が

輪番で 24 時間 365 日の救急体制が整備されております。また、1 次救急は、平日は内科、外科がそれぞれ在宅当番医制で、夕方 6 時から翌朝 8 時まで、休日は休日急患センターで午前 9 時から翌朝の 8 時までの救急体制を担っております。

堀 委員 1 次・2 次救急体制が整備されており、萩医療圏の住民は安心ですね。ところで、救急医の確保や医師の高齢化など、運営は難しくありませんか。

綿貫会長 2 次救急も 1 次救急も医師の減少と高齢化で、その円滑な運営が難しくなってきております。会員皆で知恵を絞り、何としても救急体制を堅持して参りたいと思っています。

堀 委員 堅苦しい話ばかりでしたが、今度は先生ご自身について伺いしたいと思います。出身は山口県ですか。

綿貫会長 萩市の生まれです。

堀 委員 ご略歴についてご紹介いただけますか。

綿貫会長 杏林大学を卒業後、同大学の循環器内科である第二内科に入局しました。大学病院に約 7 年勤務し、心臓カテーテルチームに属し、主に CCU など救急医療に携わっておりました。その後、実家のある萩市の都志見病院に勤務させていただきました。その間に、前院長の都志見久令男 先生のご厚意で、小倉記念病院循環器内科の延吉正清 先生のもとで 2 年間勤務させていただきました。再び、都志見病院へ戻り、地域の基幹病院でいろいろな科の先生に多くのことを学ばせていただきました。その後、父から現在の診療所を継承し、平成 18 年より、わたぬきクリニックの院長として地域医療に従事し、現在に至っております。

堀 委員 最近は都市開業の先生が多く、地方では後継者が問題となっております。先生が開業されて、ご両親はもちろん、地域の患者さんも喜ばれているでしょうね。

ところで、お忙しいとは思いますが、休日はどうしてお過ごしですか。

綿貫会長 休日は体を動かすためにロードバイクで山に出かけたり、冬にはスキーに行ったりしています。しかし、ここ最近、運動の頻度が減ってきており、時間をうまく使って、なるべく運動の習慣を維持したいと思っています。

堀 委員 スポーツ以外にも何か趣味をお持ちですか。

綿貫会長 映画鑑賞も好きで、県北地域唯一の映画館「萩ツインシネマ」で、定期的に歯科医師会、医師会の先生方との映画鑑賞する会にお邪魔しています。鑑賞後の飲み会が実は楽しみで、診療後の息抜きになっています。

堀 委員 上手に息抜きをされていますね。次に座右の銘がありましたら教えてください。

綿貫会長 「知行合一」です。

堀 委員 難しい銘ですね。私のような凡人には少し理解できないので、もう少し分かり易く解説していただけますか。

綿貫会長 「知行合一」とは、陽明学の命題の一つで、吉田松陰先生が松下村塾の掛け軸に掲げた言葉です。「知を学問で得ても、行いを廃した知は真の知ではない。また、行いばかりにとらわれ、知を廃するものは真の行いではない。」という意味です。真実を知り、行動に移してこそ、本当の知恵、と常に肝に銘じて日々を過ごしております。

堀 委員 なるほど、よく理解できました。萩市では小学校より、吉田松陰先生が残された語録を学んでいると伺っております。綿貫先生は、まさにその精神を受け継いで日常診療や医師会活動を実行されているのですね。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。先生の今後の活躍を期待し、インタビューを終了いたします。